

学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年11月21日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 2019年度上半期実施の学生生活の調査結果について
2. リチウムイオン電池で負極容量を2倍にする実用化技術開発に成功
～山形大学森下准教授と宇部興産(株)との共同開発～
3. 附属博物館とホテル協会が協働し多言語観光情報サイトを構築
～My favorite things about Yamagata－素敵な一日を、山形で～
4. 第47回山形大学模擬裁判公演のお知らせ
～裁判員制度導入10年目 裁くことの重さを改めて考える～

お知らせ

1. やまがた夜話の開催について

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和元年12月5日（木）11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（11月21日）発表者

1. 2019年度上半期実施の学生生活の調査結果について

山形大学理事・副学長

やすだ ひろのり
安田 弘法

2. リチウムイオン電池で負極容量を2倍にする実用化技術開発に成功 ～山形大学森下連携准教授と宇部興産(株)との共同開発～

学術研究院 産学連携准教授（有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当）
宇部興産株式会社 化学カンパニー 機能品事業部 ポリイミド営業部

もりした まさのり
森下 正典
ながお けいご
長尾 圭吾

3. 附属博物館とホテル協会が協働し多言語観光情報サイトを構築

～My favorite things about Yamagata – 素敵な一日を、山形で～

学術研究院 准教授（博物館学・附属博物館学芸研究員）
山形グランドホテル 宿泊部支配人
ホテルキャッスル山形 宿泊部支配人

さとう こと
佐藤 琴
いがらし ひろゆき
五十嵐 浩之
わたなべ たかし
渡辺 崇

4. 第47回山形大学模擬裁判公演のお知らせ

～裁判員制度導入10年目 裁くことの重さを改めて考える～

第47代模擬裁判実行委員会委員長

こばやし ゆうすけ
小林 優恭

第47代模擬裁判実行委員会副委員長

ほし たかひで
星 昂秀

第48代模擬裁判実行委員会委員長

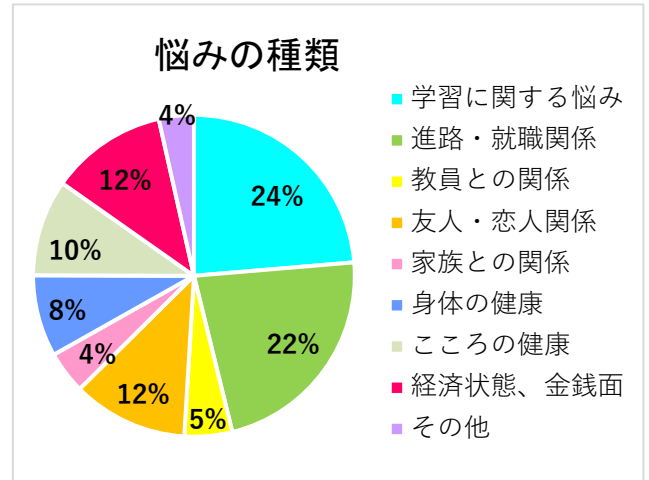
ほなみ れい
穂波 怜緯

令和元年（2019年）11月21日

2019年度上半期実施の学生生活の調査結果について

【本件のポイント】

- 後期授業開始前に学生へアンケート調査を実施し、学生総数の15%から回答を得た
- 学生の悩みの有無、種類を主な内容としたアンケート調査で、今回で4回目の実施となる
- 相談したい内容を記入することができるため、大学からの問いかけに悩みを打ち明ける機会として一定の効果があった



【概要】

山形大学では、学生に対し、後期授業前のオリエンテーションにおいて、悩みの有無や種類等を主な内容とするアンケート調査を実施しました。これは、2018年1月から継続して実施しているアンケート調査で、今回が4回目の調査となります。今回の回答数は1,275で、学生総数の約15%から回答を得ました。

第2回目の調査から、相談したいことを記入できる欄を設け、大学から積極的に問いかけを行いました。そこへの記入で悩みを打ち明ける学生もあり、一定の効果もあったと考えられます。また、今回から新たに所属キャンパスを回答する項目を設けたことで、学生の要望や悩みにより対応しやすくなりました。

調査からは、“学年が上がるにつれて悩みを持つ学生が増加する”“学年によって悩みの種類が異なる”といった学生の悩みの傾向が明らかになり、これらの結果を教職員の研修や学生指導に生かしていくこととしています。

【第4回調査の概要】

調査対象：山形大学の学生（約8,800名）
 調査期間：2019年9月25日から10月11日
 調査方法：Webアンケート（任意回答）
 回答数：1,275（学生総数の約15%）

※参考：過去の調査

調査対象：山形大学の学生
 調査方法：Webアンケート（任意回答）
 第2回より、成績表配付時にアンケートの協力依頼を行っている。

	第1回	第2回	第3回
調査期間	2018/1/10～1/31	2018/9/20～10/12	2019/4/3～4/19
回答数	104（学生総数の約1%） ※緊急実施。掲示でアンケートへの協力を呼びかけた。	1,553（学生総数の約17%）	717（学生総数の約8%） ※新1年生は対象外のため、回答数が低いと思われる。

お問い合わせ
 教育・学生支援部学務課
 TEL 023-628-4841 メール k-gakumu@km.jk.yamagata-u.ac.jp

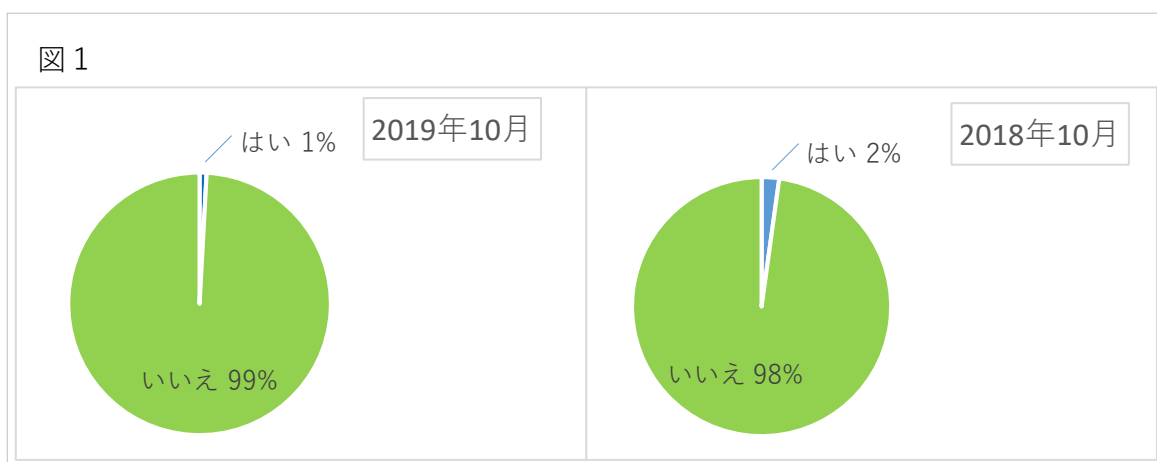
2019年10月実施の学生生活の調査結果

2017年度から開始し、2018年度からは回答率を上げるため学期始めの成績表配付時にアンケートの協力依頼を行っている。なお、2019年4月実施分では新1年生を対象外としたため、回答数が減少している。〈2019年10月の回答数:1,275、2019年4月:717、2018年10月:1,553、2018年1月:104〉

アンケートは、成績表配付時にアンケートのURL、QRコードを記載したチラシを配付し、学生の任意による回答とした。なお、認証ID等は用いていないため、重複・部外者入力が含まれる可能性は否定できない。(URLは非公開設定)

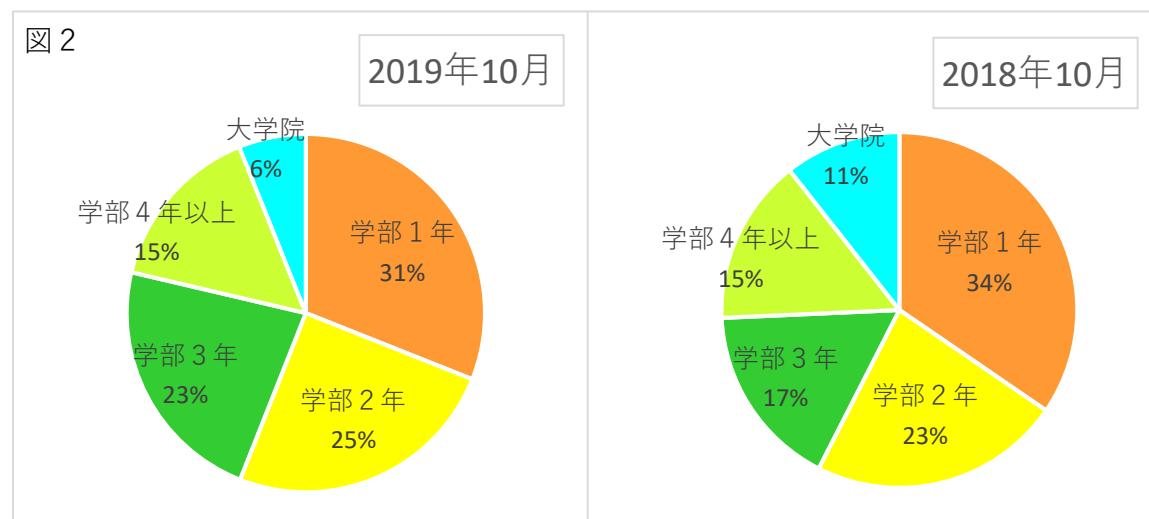
1. 相談等に関する大学からの連絡の希望について

・「現在悩みを抱えており、大学からの連絡を希望するか」という問いに対し、大学からの連絡を希望するという回答は11件であった(図1)。内容は、進路や単位、教員との関係等についてであった。大学側からの問い掛けにより悩みを打ち明ける学生もあり、一定の効果があると考えられる。

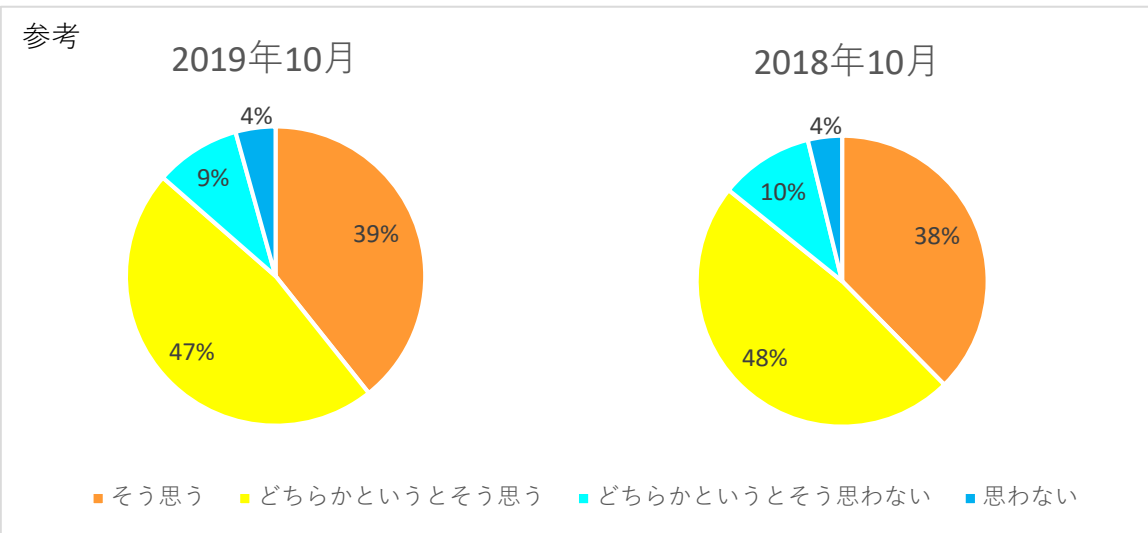
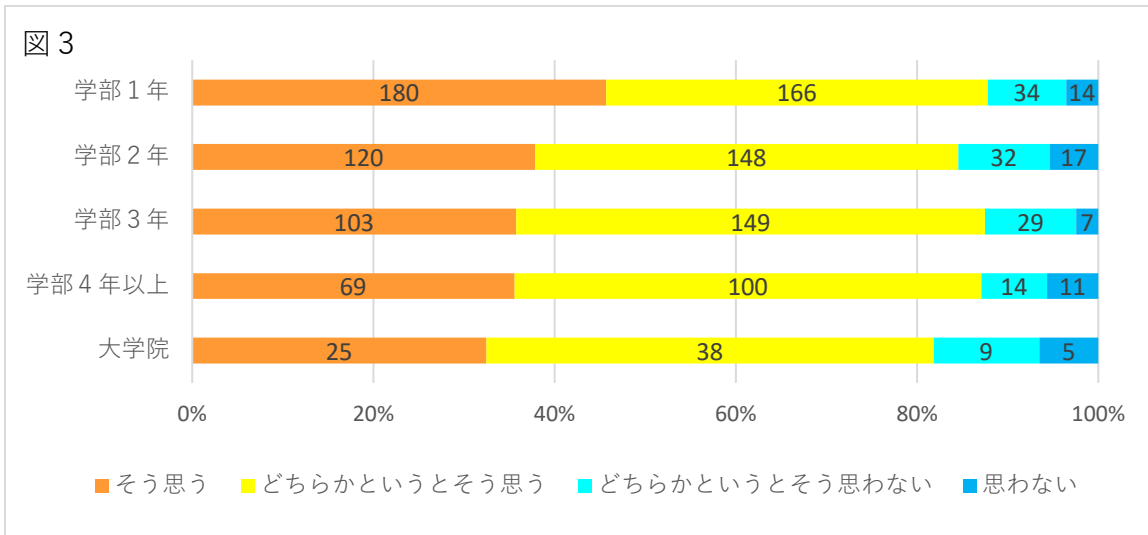


2. 回答者の学年について

※学部4年以上の学生数は留年者を含む。



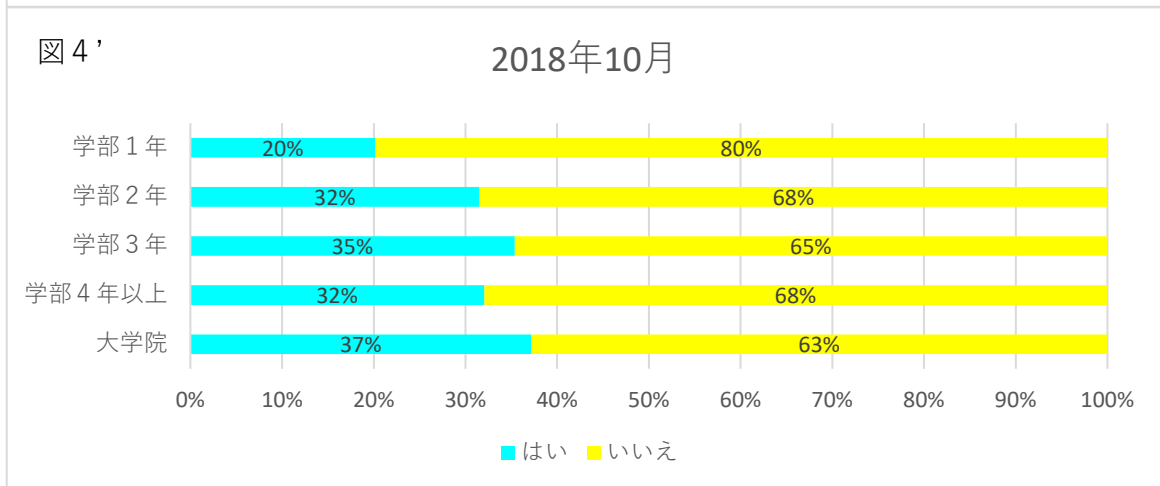
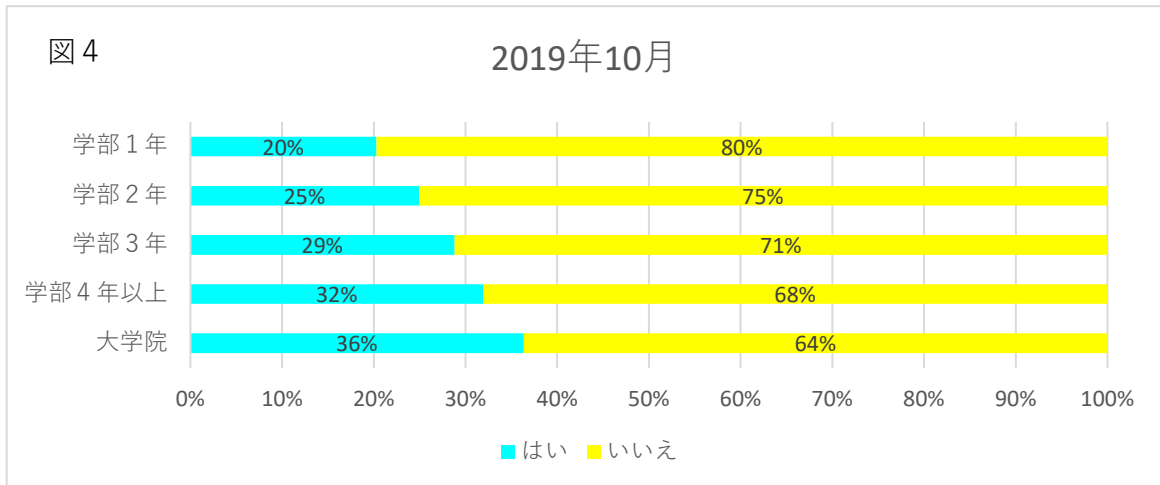
3. 大学生生活の充実（楽しい、有意義等）について
 ・いずれの学年でも8割以上の学生が大学生生活は充実していると感じている（「そう思う」「どちらかというと思う」の割合）（図3）。



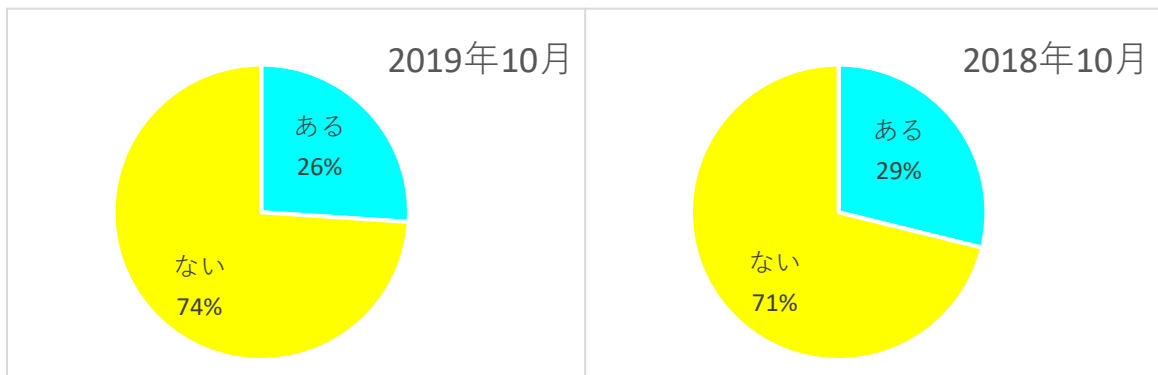
4. 大学生生活の悩みについて

・前年の調査と比べ、学年が上がると悩みのある学生の割合が増加する傾向が見えた。

(図4)



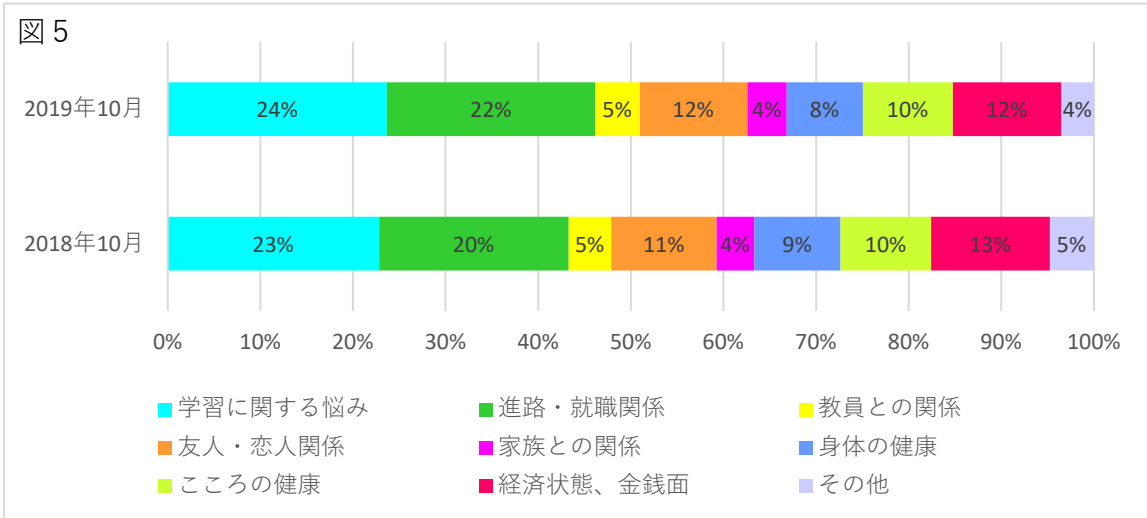
参考：悩みのある学生の割合（全体）



2018年・2019年の10月に調査した結果では、悩みのある学生の割合は大きく変わらない。

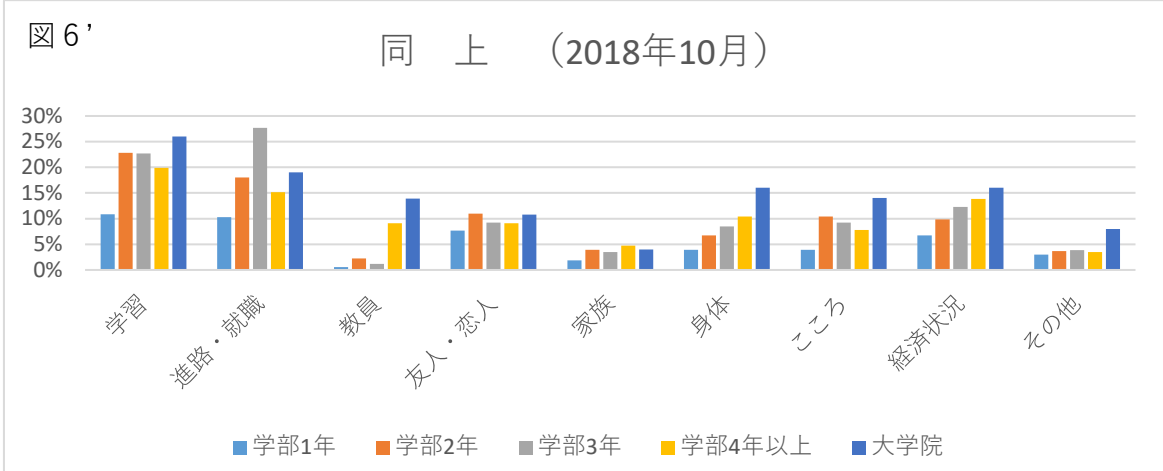
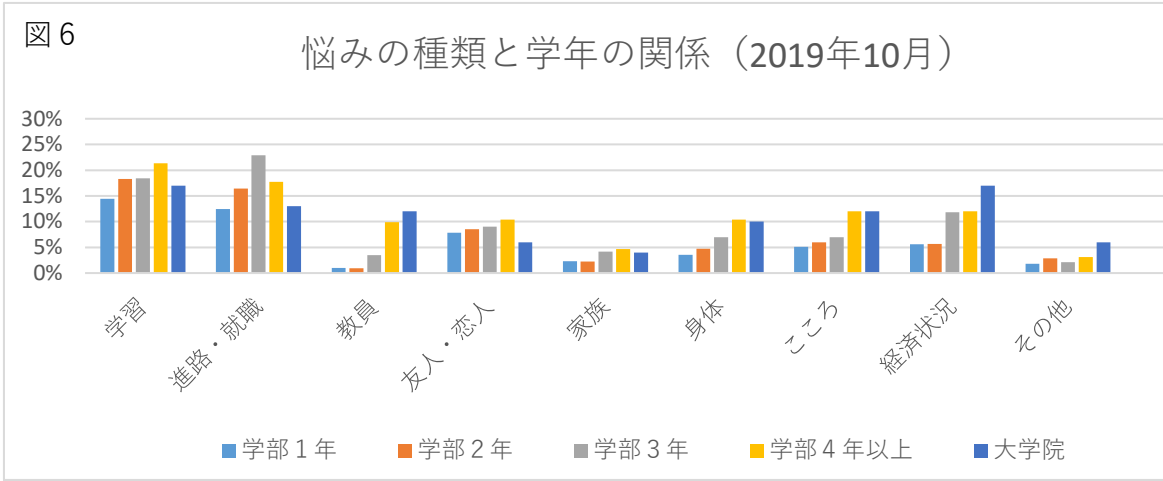
5. 悩みの種類について（複数可）

・「学習」「進路・就職」が多く、次いで「経済状況」の悩みが目立つ。（図5）



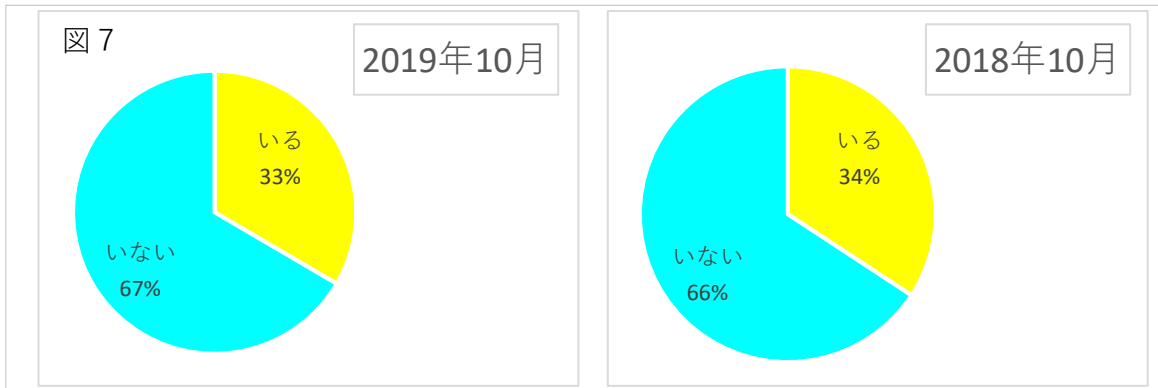
6. 悩みの種類と学年との関係について

・「学習」「進路・就職」の悩みは、いずれの学年でも多く見られる。「教員」「身体」「こころ」「経済状況」については、学年が上がるほど増加する傾向がある。（図6）



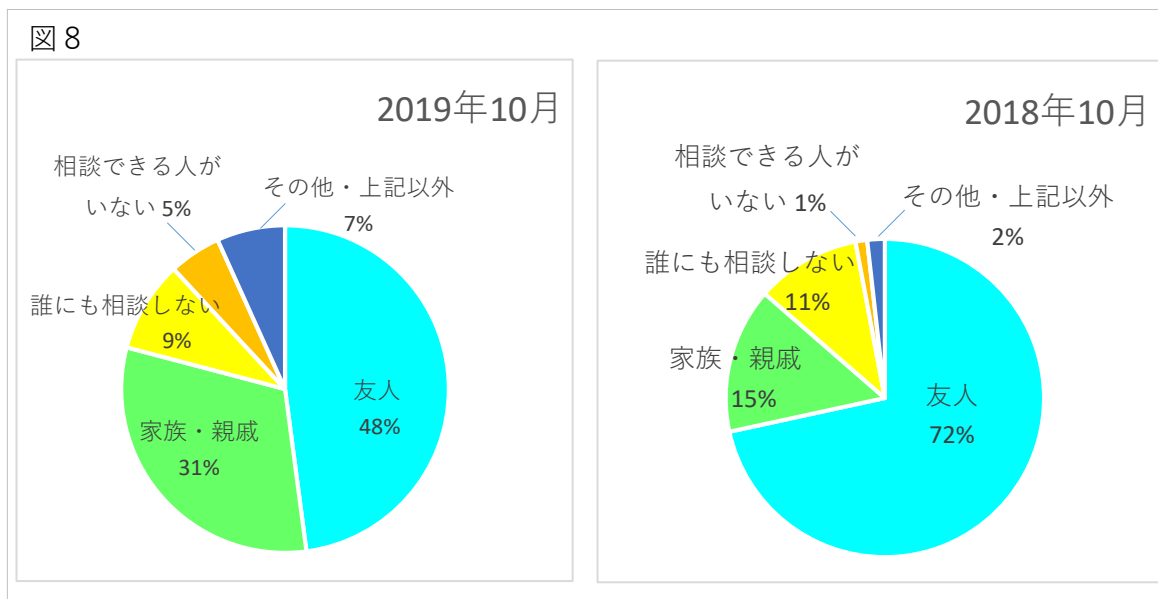
7. 悩みを打ち明けられる教職員がいる学生の割合について

・ 3割程度の学生は教職員へ相談ができることがわかる（図7）。



8. 教職員に相談できない学生の相談相手について（複数可）

・ 約8割の学生が「友人」「家族・親戚」に相談するが、5%の学生は「相談できる人がいない」と回答している（図8）。



2019年11月21日

リチウムイオン電池で負極容量を2倍にする実用化技術開発に成功 ～山形大学森下准教授と宇部興産株との共同開発～

【本件のポイント】

- 山形大学森下正典産学連携准教授と宇部興産株式会社は、リチウムイオン電池の負極(=マイナス極)において、従来よりも約2倍もの容量(=電気を貯めることができる量)をもつ負極の開発に成功した。
- 本技術の負極には宇部興産株式会社が開発した水系ポリイミド樹脂*を使用し、負極の試作は山形大学が担当した。
- 本技術の負極を採用したリチウムイオン電池を使用すると、スマートフォンなど電子デバイスの使用時間は約1.3～2倍になる可能性がある。



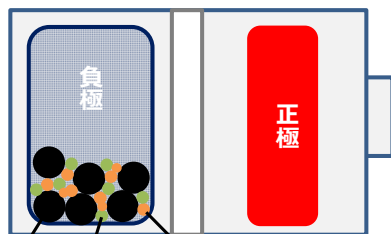
【概要】

山形大学森下正典産学連携准教授と宇部興産株式会社（代表取締役社長：泉原雅人、山口県宇部市）は、リチウムイオン電池の負極(=マイナス極)において、従来よりも約2倍もの容量(=電気を貯めることができる量)をもつ負極を共同開発した。負極には黒鉛とシリコン材料を用いており、さらに宇部興産株式会社が開発した水系ポリイミド樹脂と複合化することで、シリコンの膨張・収縮による負極へのダメージを和らげる。これによりシリコンを使用した場合に電池の寿命が短くなるという課題をクリアし、従来よりも約2倍の容量をもつリチウムイオン電池用負極の開発に成功した。本技術の負極を採用した電池を使用すると、スマートフォンなど電子デバイスは使用時間が約1.3～2倍になる可能性がある。また、ドローンのような長時間の使用が要求されるデバイスでの活用が期待される。

【背景】

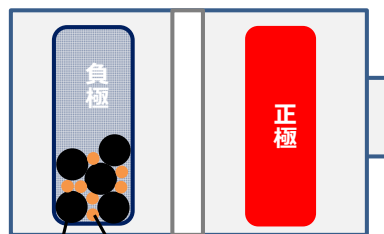
電池には正極(=プラス極)と負極(=マイナス極)とがあり、電子デバイスなどの使用時間を延ばすには正極・負極の容量を大きくする必要がある。特に負極には従来の黒鉛よりも5～10倍もの容量をもつシリコンという魅力的な材料があり、これを負極に使用するとリチウムイオン電池の容量は大幅に増加する。しかしながら、この材料は充電・放電で大きく膨張・収縮を繰り返し負極にダメージを与えるため、電池の寿命が短くなるという課題があった。

【本技術のリチウムイオン電池用負極】



黒鉛 シリコン ポリイミド樹脂

【従来のリチウムイオン電池用負極】



黒鉛 フッ素系樹脂

	本技術の負極	従来の負極
負極	黒鉛、シリコン系材料	黒鉛
複合化する樹脂	水系ポリイミド樹脂	溶剤系フッ素系樹脂
電池の特徴	電子デバイスの使用時間が1.3～2倍になる可能性がある	

【共同開発の成果】

山形大学森下正典産学連携准教授と宇部興産株式会社とは、負極に黒鉛とシリコンとを使用し、それらを宇部興産株式会社が開発した水系ポリイミド樹脂と複合化することで、従来よりも約2倍の容量(従来の負極は約320mAh/g、本技術の負極は600~650mAh/g)をもち、且つ従来と同等以上の寿命をもつリチウムイオン電池用負極の開発に成功した。この開発した樹脂は従来のフッ素系樹脂よりも接着力が強く、柔軟でよく伸びるという特徴がある。そのためシリコンが膨張・収縮しても負極へのダメージを和らげることができ、シリコンを使用した場合に電池の寿命が短くなるという課題をクリアした。

【本開発のキーポイントとなる材料】



黒鉛粉末



シリコン粉末



水系ポリイミド樹脂
(宇部興産株式会社開発品)

【今後の展望】

本技術はドローンのような長時間の使用が要求されるデバイスには有効な技術であり、2年以内の製品化を目指し、すでに本技術を使用したドローン用電池の試作を進めている。

※用語解説

水系ポリイミド樹脂：ポリイミド樹脂は熱に強く、よく伸びるなどの特徴をもつプラスチックで、自動車部品や人工衛星などに使用されている。従来、ポリイミド樹脂の開発には有機溶剤を使用していた。しかしながら環境・健康問題、また取り扱いのしやすさから有機溶剤を水に換えて水系ポリイミド樹脂を開発した。

お問い合わせ

- ・山形大学 学術研究院 産学連携准教授 森下 正典 (有機エレクトロニクスイノベーションセンター担当)
Tel 0238-26-3372、 e-mail morishita@yz.yamagata-u.ac.jp
- ・宇部興産株式会社 化学カンパニー 機能品事業部 ポリイミド営業部
Tel 03-5419-6180、 URL : <http://www.upilex.jp/>

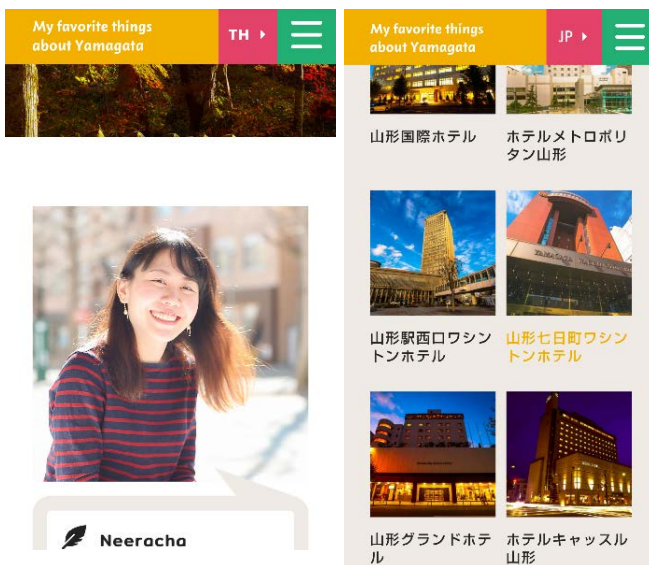
令和元年（2019年）11月21日

附属博物館とホテル協会が協働し多言語観光情報サイトを構築

My favorite things about Yamagata～素敵な一日を、山形で～

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館を中核館とする山形文化遺産活用事業実行委員会^{※1}は、山形市ホテル協会宿泊部会^{※2}と協力して山形市内の観光情報を英語・台湾華語・タイ語・韓国語で発信するサイトを構築しました。
- 山形への旅行者にとって必要な情報を視覚的にわかりやすく提供するだけでなく、パンフレットを作成し、利用者の拡大に務めています。
- サイト構築にあたっては文化庁の補助金（平成30・31年度地域と共働した博物館創造活動支援事業）^{※3}を活用しました。



画面イメージ

【概要】

山形大学附属博物館を中核館として組織された「山形文化遺産活用事業実行委員会」は平成28年度から「山形の文化遺産を世界に発信するプロジェクト」を実施してきました。現在、国を挙げて取り組んでいる外国人観光客増加対策の一環として、博物館などの文化施設の情報とともに観光客にとって必要な食やお土産などの観光情報を合わせて多言語で発信するサイト「My favorite things about Yamagata」を構築しました。構築にあたっては、山形市ホテル協会宿泊部会や市内の店舗に協力を仰ぎました。山形市内の観光資源を活用し、外国人観光客の誘客および滞在時の満足度を高めることを目的としています。



○アドレス <https://my-favorite-things-about-yamagata.com/>

○掲載文化施設 山形県立博物館、山形美術館、山形市郷土館、最上義光歴史館文翔館、山形県立博物館教育資料館、山寺芭蕉記念館
山形大学附属博物館

○掲載店舗 27 店舗

○公開開始 2019 年 5 月から

※文化施設だけでなく、南十日町、平清水、霞城公園、御殿堰などの山形市内の見どころについても紹介しています。今後は文化施設の基本情報だけでなく、展示品の解説の多言語化を図りたいと考えています。

【用語解説】

※1 山形文化遺産活用事業実行委員会：山形大学附属博物館を中核館とし、山形市内の文化施設および市民団体で構成された実行委員会。目的は山形の文化遺産および博物館等の国際的な発信力強化のための事業を推進すること。

※2 山形市ホテル協会宿泊部会：ホテルメトロポリタン山形、山形国際ホテル、ホテルキャッスル山形、山形グランドホテル、山形駅西口ワシントンホテル、山形七日町ワシントンホテルにより構成。

※3 地域と共働した博物館創造活動支援事業：博物館が核となって実施する地域文化の発信など、新たな機能の創造等を支援することによって、文化芸術立国の実現に資することを目的とした、文化庁の事業。

お問い合わせ

学術研究院准教授 佐藤 琴（博物館学・附属博物館学芸研究員）

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kdw.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）11月21日

第47回山形大学模擬裁判公演のお知らせ ～ 裁判員制度導入10年目 裁くことの重さを改めて考える ～

【本件のポイント】

- 人文社会科学部を中心とした学生の自主ゼミとして40年以上活動し、裁判所や検察などの協力のもと、企画や脚本、演出まで学生が担当しています。
- 今年のテーマは「求裁 -死刑を望んだ被告人-」、裁判員制度にも触れながら、「人を裁くことの重さ」を考えます。
- 1年生から3年生の学生約120人が参加し、1年がかりで作り上げる迫力の公演とその取り組みにご注目ください。



【概要】

山形大学模擬裁判実行委員会は、年に1度「模擬裁判」という裁判劇の公演を行い、研究成果を発表しています。47年目となる今年は、求刑や判決をテーマに『求裁 -死刑を望んだ被告人-』を公演します。また、2019年は裁判員制度導入から10年目を迎えた節目の年です。裁判員の役割や負担についてイメージが持ちにくいですが、少しでも身近に司法や制度のことを知ってもらえるよう、公演に取り込んでいることも今年の特徴です。

【模擬裁判とは】

山形大学模擬裁判実行委員会は、山形大学の1年生から3年生を中心に構成される学生の自主ゼミです。年に一度の模擬裁判という裁判劇の公演で研究成果を発表しています。裁判劇を市民の皆様に観ていただくことで、法律を身近に感じ、その時代が抱える社会問題について考えていただくきっかけを作ることを目的としています。

【今年のテーマは「求刑・判決」「裁判員制度】

求刑や量刑など刑の重さに注目が集まりがちですが、動機や背景など多様な事情が判決の判断には考慮されています。目に見えるものだけで極刑を唱えていいのか、世論と判決の関係性に着目するとともに、今年導入10年目を迎えた裁判員制度にも触れることで、市民のみなさんに司法を身近に考えていただくきっかけを、劇を通してお届けしたいと考えています

【公演内容】『求裁 -死刑を望んだ被告人-』

日時：2019年11月29日(金) 18:00～、11月30日(土) 15:00～
場所：山形市民会館
料金：前売り券 250円 / 当日券 300円（高校生以下は無料）
チケット販売：山形大学生協 / MINiPLA 山形七日町店 / 大沼山形本店

※本番に向けた最終リハーサルや準備など、以下の活動を公開させていただきます。
ご関心のある報道機関の皆様はぜひお越しください。

- 11月25日(月)、26日(火) 16:50～18:00 キャストリハーサル 【基盤教育3号館322教室】



※予告動画公開中です



お問い合わせ

山形大学模擬裁判実行委員会 委員長 小林優恭 (yuu0710165@docomo.ne.jp)

令和元年(2019年)11月21日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. やまがた夜話の開催について

大学コンソーシアムやまがたでは、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話ししていただく「やまがた夜話」を開催しています。

12月は放送大学山形学習センター教養講座として、7回の開催を予定しています。

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

1. 「科学で東北を盛り上げ隊！@石巻」

日時：11月24日(日)10:00～15:00

会場：こもれびの降る丘遊楽館（石巻市北村字15-1）

参加費：無料（申込み不要、直接会場にお越しください）

2. スマート・テロワール豊穰感謝祭2019

日時：11月26日(火)13:30～17:00

会場：グランド エル・サン（鶴岡市東原町17-7）

参加費：無料（申込み必要；締切は11月22日(金)まで）

3. 第16回学長特別講演会を米沢キャンパスで開催

テーマ：全産業デジタル化時代のイノベーションと人材育成～我が半生を振り返って

講師：株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO 藤原洋氏

（インターネット協会理事長、慶應義塾大学環境情報学部特別招聘教授、SBI 大学院大学副学長）

日時：12月12日(木)16:30～18:00

場所：山形大学米沢キャンパス 4号館中示範A教室

4. COC + シンポジウム「高等教育機関による若者定着の“これまで”と“これから”」

日時：12月19日(木)13:30～16:10

会場：山形国際ホテル 3F 富士の間

参加費：無料（定員100名、申込み必要；締切は12月2日(月)まで）

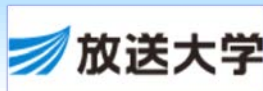
5. 第2回高分子と有機材料に関する国際会議(2nd IPOMY)を開催

国内外から第一線で活躍する研究者を招聘し、マイクロプラスチック問題や有機EL研究など、我々の生活にも身近な、高分子と有機材料の研究に関する国際会議を開催します。

期間：12月17日(火)～12月20日(金)

会場：山形大学米沢キャンパス

やまがた夜話



放送大学山形学習センター教養講座



令和元年

12月 4日(水) 家庭関係の心理学

講師:佐藤 宏平 氏(放送大学客員准教授/山形大学准教授・地域教育文化学部担当)

○さまざまな家族関係について、家族心理学の観点から考えます。

12月12日(木) ことばも色々

講師:富田 かおる 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・人文社会科学部担当)

○音に耳を澄ませ文字を眺め、どこの地域の言語なのかを当ててみましょう。

12月17日(火) 算数・中学数学の「学び直し」～「長さ」を例に学び直してみよう!～

講師:佐藤 圓治 氏(放送大学山形学習センター所長/山形大学名誉教授)

○日常で、何となく使われている言葉であるが、算数では、日常言葉からやや踏み込んでいる算数用語がある。その一例として、今回は、「長さ」を取り上げ、算数、中学数学を振り返る。そして、現代の「長さ」について探ってみます。

12月18日(水) 心と身体の発達をうながす親の関わり ～育脳の観点から～

講師:森 直樹 氏(放送大学客員准教授/山形県立保健医療大学准教授)

○子育てについて育脳の観点から概説致します。「生活習慣」、「運動」、「スキンシップ」、「笑い」がどのように脳の育ちに関係しているのか、また、育脳の観点からの親子の関わり方についてお話致します。

12月19日(木) 「里山資本」と地域活性化

講師:下平 裕之 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・人文社会科学部担当)

○中山間地域の活性化のあり方について、「里山資本」をキーワードとして考えてみます。

12月20日(金) SDGsと科学 その2

講師:栗山 恭直 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・理学部担当)

○持続可能な社会(SD)という言葉がメディアで使われていますが、その歴史的背景や意味、さらに、話題のSDGsについて、科学の観点から説明したいと思います。

12月24日(火) キリスト教と日本人 ～「世間」の視点から～

講師:山本 陽史 氏(放送大学客員教授/山形大学教授・EM部担当)

○クリスマスの行事や音楽などで日本人はキリスト教に親しみながらも、なぜ多くの人が信者にならないのでしょうか? そこには日本の「世間」の存在が深く関わっているという私の考えを述べたいと思います。

※時間はいずれも18:30～19:30です。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス

山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
定員:50名

申し込み

チラシ裏面の参加申込書に必要事項を記入の上Fax、郵送、メール等でお申し込みください。

入場無料

主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み
お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

Tel: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820

E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前々日までにお申込をお願いします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 令和元年12月4日(水) 講師:佐藤 宏平 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月12日(木) 講師:富田かおる 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月17日(火) 講師:佐藤 圓治 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月18日(水) 講師:森 直樹 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月19日(木) 講師:下平 裕之 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月20日(金) 講師:栗山 恭直 氏 <input type="checkbox"/> 令和元年12月24日(火) 講師:山本 陽史 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	必須ではありません

・受講申込者が定員を超えた場合には、入場をお断りさせていただく場合がございます。

・この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820

E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp